

<補足資料>

平成26年度 石狩市教職員研修 ウィンターセミナー

兼 平成26年度 ほっかいどう学力向上推進事業「ほっかいどうの子どもたちの学力について考える会」

アンケート結果

【選択式 集計結果】

88名回答 ()内は%

	そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1 参加してよかった。	52 (59.1)	33 (37.5)	2 (2.3)	1 (1.1)
2 学力向上や望ましい生活習慣の確立に向けて、学校、家庭、地域の取り組むべき課題が明らかになった。	36 (40.9)	43 (48.9)	8 (9.1)	1 (1.1)
3 発表校、発表地域の学力向上の取組は参考になった。	58 (65.9)	29 (33.0)	1 (1.1)	0
4 全体を通して、今後に役立つものだった。	48 (54.5)	38 (43.2)	2 (2.3)	0
5 学力向上や生活習慣の確立の取組への意欲が高まった。	56 (63.6)	30 (34.1)	2 (2.3)	0

網掛け：一番多い数値

【自由記述より】

- 札幌市の学力向上に対する取組の内容を聞くことができ参考になった。
- 実践発表から、授業改善や学習規律の徹底及び家庭学習の推進など、自校において取り組むべき具体的な内容について視点をもつことができた。
- 実践発表から、学力向上を進めるためには、小・中連携の視点も重要であることが理解できた。
- パネルディスカッションでは、土曜授業の取組について具体的なイメージをもつことができた。
- 学校と保護者、地域が一体となって取り組むことが指導の効果をより高めることをあらためて確認できた。
- 異校種の先生の学力感や保護者・地域の方の話から、自分の実践を振り返る機会となった。
- 中1ギャップあるいは中1リセットが課題となっていますが、解消するためにも意識を高める必要があると思った。
- ワークショップやグループ協議の時間を設定すると、さらに学力向上に対する取組についての理解を深めることができた。
- 「学校の取組」の発表は個人としての考えではなく、学校が一体となった実践を発表するべき。
- 時間が30分オーバーしたことについて、内容をカットするなど臨機応変に対応してほしい。
- ※ 学力向上について、学習規律や授業づくりの他に、子どもの学ぶ意欲を引き出すような教師の関わり方についても今一度見直す必要があるのではないかと感じている。